

2024

令和6年8月26日

第27号

(通算132号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!

2026年、県立短大は「大学校」に変わります。



1 サイバー防犯競技会 準優勝



準優勝に輝いた学生 (左から絹張哲平さん、小原大地さん、久野響介さん、小野瀬あゆさん)

8月22日(木)、地域社会のサイバーセキュリティ意識向上を狙いにした競技会(主催：茨城県警)が開催されました。70名の高校生や大学生が参加し、専門知識が試される問題に取り組みました。参加者は、インターネットや仲間との協力で答えを導いていました。本校は見事準優勝に輝きました。

2 大盛況のオープンキャンパス



学校紹介の様子

第三回オープンキャンパスが8月24日(土)に開催され、高校生と保護者合わせて179人が来校されました。会場一杯の参加者が、冒頭の学校紹介に聞き入っていました。担当の榎引先生から、次代を担うIT人材の育成に取り組む本校の特色や、大学校化について説明がありました。

続いて、4つの体験授業(次世代技術を体感! 生成AI、ネットワーク入門、サイバーセキュリティ、プログラミングで自在にドローン体験)が実施され、参加者は楽しそうに参加していました。



個別相談の様子

<個別相談の主な内容>

- 1 大学校化と応用課程について
- 2 入試制度について
- 3 カリキュラムについて
- 4 学生生活について
- 5 授業料について

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>茨城新聞(2024年8月23日)

サイバー防犯 競技会

高大生、知識・技術生かす

●檜山花蓮さん(水戸桜ノ牧高卒)

◇要約：地域社会のサイバーセキュリティ意識向上を図ろうと、茨城県警はコンピュータに関する知識や技術を競う大会を開催した。サイバー企画課長は、サイバー犯罪は深刻化しているため、人々の関心を高め輪を広げていきたいと話している。

◇感想：競技会開催により、サイバー攻撃に関する知識や技術が広まると思う。攻撃による危険性を知ることによって犯罪も減ると思う。これからもこうした方法でセキュリティに関する知識が広まって欲しい。

●堀江詩音さん(日立北高卒)

◇感想：サイバー犯罪が深刻化している現代では、IT人材育成が大切であると改めて感じた。人材育成のために開催された競技会には、積極的に若者が参加してサイバー犯罪への知識を身に付けるべきと考えた。

●内田蔵人さん(石岡商高卒)

◇感想：セキュリティ関連に興味があるので、とても楽しい競技会だと思った。
参加した人の感想に「ゲーム感覚で学べた」と話していたので、2年生になったらセキュリティコースの学習の一つとして参加したいと思った。

●永井海羽さん(日立商高卒)

◇感想：大学で学んだ知識を使って問題を解くことは楽しそうだった。
資格取得のための勉強と違って、楽しみながら仲間と協力して解く機会はなかなかないのでやってみたいと思った。

●坂本琴子さん(鹿島高卒)

◇感想：ゲーム感覚で学べるのは良いなと思った。教科書を読んでいるだけでは分からないことも、実際の犯罪手口を想定した問題を仲間と協力して解くことで、より身近に感じ理解が深まると思った。

●富永誠也さん(太田一高卒)

◇感想：ITの使用が当たり前の時代、子供から大人まで適切に活用する能力が求められている。今回の競技会は、人々のセキュリティに関する意識が高まると思った。

